



校長講話 『 あなたは清掃にどう取り組みますか？ 』 2月25日(木)

墨坂中の3本柱。何ですか？クラスで確認しましょう。【問】そうですね。「あいさつ」「清掃」「歌声」ですね。生徒会選挙でもそのことを取り上げている候補者がたくさんいました。今日はその中のこれ『清掃』について考えてみます。

さあ、この姿を見て、どう思いますか？クラスで数名発言しましょう。

この姿はこの2月、昇降口から南校舎に向かう廊下での3年生の姿です。2月、3年生ということを知って何を感じますか？クラスで数名発言しましょう。【問】

今日はこの姿について考えていこうと思います。あなたは清掃にどう取り組みますか？

これは今から11年前、平成21年度の姿です。当時の整美委員長寺坂雄吾さんの言葉を紹介します。



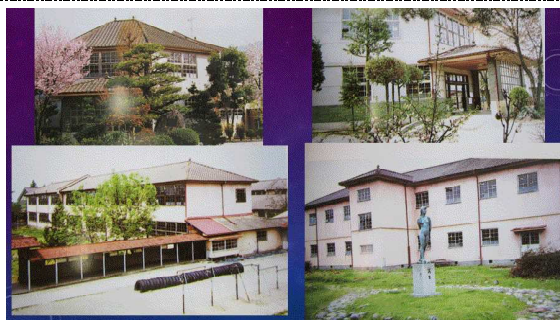
膝付き4回がけをする3年生



「今年が墨坂中学校50周年であることから伝統の膝付き4回がけを確認し合いました。4回がけの意味、「自分のため 校舎のため 先輩のため まだ見ぬ後輩のため」を改めて理解し合いました。これでこの先も4回がけが引き継がれていくことでしょう。いや引き継いでいってもらわなければ困ります。」

この写真は何か分かりますか？この校舎になる前の墨坂中学校です。これはその旧校舎の廊下です。何を感じますか？数名発言しましょう。【問】

この写真は、そうです、旧校舎の解体時の写真です。今から28年前、平成4年のことです。そして今の南校舎が平成5年に完成しています。北校舎は平成6年に完成します。その旧校舎が解体された時のことを当時の先生が文章に残しています。



旧校舎の廊下

平成4年5月解体予定の1、2年普通教室棟はすでに封鎖され、1・2年生は仮設のプレハブ生活が始まった。校舎の解体が迫ると何人もの生徒が封鎖された校舎に入りたいと教頭先生に直談判に来る。一目でも自分たちの教室を見たい、自分の座っていた場所にもう一度行きたいと言う訴えである。

解体前日、部活動が終わっても何人かの生徒が鍵のかけられた普通教室棟の入り口で泣いている。私たちはこの木造校舎で卒業したい。どうか工事を延期してください。と泣きながら校舎にすがりつく生徒たち。なんという姿であろう。何が生徒たちをそうさせているのか。管理棟や3年生の教室がある北校舎は翌年平成5年の5月に解体される。教師も生徒も残された木造校舎の床を必死になって磨いている。床を支える土台は腐っていてそこを通ると床がきしむ。しかし、鏡のように窓や壁を写し出す黒光りした床は善光寺にあるびんずる尊者のように崇高に見える。1、2年生が生活している仮設プレハブ校舎の床はベニヤ板である。雑巾がけをすると1週間と立たないうちに穴が開く。それでも、2年生はベニヤの床に向かう。1年生も見よう見まねで床を磨き出す。その思いが伝わったのか、ベニヤ板が光り出す。このプレハブ校舎も1年後には取り壊される。それでも磨き、ついに鏡のようにベニヤ板の床も窓を写し出した。生徒も教師もお互いに向かうものが床であったことは確かである。



という文章です。

この写真を見てください。今年1月に撮影した写真です。校舎のどこかわかりますか？昇降口から南校舎に向かう廊下です。気づくことはありますか？各クラス数名発言しましょう。【問】



現在の校舎の廊下

光っていますね。これはワックスがかけられた光ではありませんね。この廊下を改めてみて何を感じますか。これもまたクラスで数名発言しましょう。【問】

この校舎ができて今年で28年目。旧校舎の黒光りとまではいきませんが、27年間あなたがたの先輩が墨坂中の伝統である膝付き4回がけ清掃を行ってきた証（あかし）がここに 있습니다。今この校舎を築立とうとしている28年目の3年生も旧校舎と新校舎を磨いてきた先輩と同じように膝付き4回がけを3年間、毎日行ってくれました。長く受け継がれてきたバトンがこれからも続いていくことで、いつかこの校舎が解体される時、28年前の光景がきっと繰り返されることでしょう。

こうして見てくると、「自分のため 校舎のため 先輩のため まだ見ぬ後輩のため」と心の中で唱えながらの膝付き4回がけの意義・価値を改めて感じます。

あなたは清掃にどう取り組みますか？

## 東日本大震災から10年 「14:46に全校で黙とうをしました」



3月11日（木）、来賓玄関に弔旗を設置し、14:46分に全校生徒・職員で10年前の震災の日を思い、1分間の祈りを捧げました。生徒たちは、震災当時は3～5歳でしたので、当時のことはよく覚えていないと思います。しかし、どの子も凜とした姿勢で臨み、厳かな静けさが学校中を包み込みました。被災地では、まだまだ震災は終わっていません。一日も早い復興を願います。